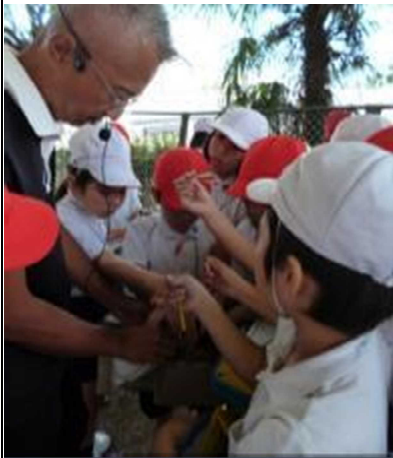
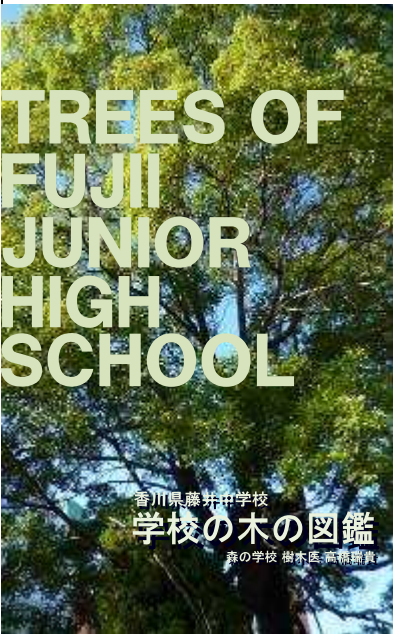


プログラム名	
樹木医と一緒に 学校の木の図鑑をつくらう	
プログラムの概要・ねらい	
校庭の樹木を知り、観察結果を冊子にまとめ、その学校オリジナルの「学校の木の図鑑」として記録します。ただ身の回りにあるだけの存在だった木を、「生き物」として見るためのポイントを学び、各樹種にまつわる生物的、歴史的、文化的な話題に触れつつ、子供たちの自然への関心を伸ばすきっかけ作りを行います。	
プログラムの分野	
地球温暖化防止・エネルギー ごみ・3R 自然 生き物 大気 水 その他	
プログラムの対象者	
幼稚園・小学校低学年・小学校中学年・小学校高学年・中学校 特別支援学校（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）	
対象人数(1回に実施可能な人数)	
100 名程度まで	
実施場所	所要時間
学校敷地内	※幼稚園については、原則1時間まで 2時間程度が望ましいが、1時間でも可能
プログラムの実施に必要な準備物	
学校、園で準備が必要なもの	筆記用具(生徒児童園児各自)・クリップボード 可能なら観察用のルーペ
団場で準備するもの	記録用冊子（「学校の木の図鑑」）
プログラム実施に伴う安全上の注意事項、リスクの対処法 ※雨天時の対応など	
屋外実施が原則のため、夏期の場合は熱中症対策の飲み物休憩、冬期の場合は体調を崩さないよう防寒対策などが必要と考えられますが、その他、特に大きなリスクは予想されません。雨天の場合、小雨であれば雨具を用いて実施も可能ですが、最悪の場合、枝葉のサンプルを用いて室内での講義・観察も可能です。日程の再調整が必要な場合、これを協議します。	

【プログラムの進め方】

	学習内容・活動	写真
導入	◎木を好きになるために、様々な木を「知る」講座であることを確認、目的の共有を図ります。 ◎各樹種を見て回りながら、講義・観察を行なう進行方法、冊子への記入方法などを説明します。	
展開	◎各樹種を見て回りながら、観察ポイントをチェックします。 ◎それぞれの木にまつわるクイズを交えながら講義を行います。講義の話題は、生物・歴史・民俗・文化など、多様な角度からのものとします。	
確認	◎木の見方、観察ポイントをはじめ、木についてさまざまな知ったことを確認します。 ◎また、知ったことは図鑑にまとまっているため、「自分だけの図鑑」として大切に残してゆくことを呼びかけます。 ◎何事も「好き」になるためには「知る」ことが前提です。この講座で「知った」ことをきっかけに「好き」になった木があれば、子供に発表させ、学んだことを「表現」に変えるのもよいことだと考えます。	

【プログラムのアピールポイント】

- ◎身近にあっても、普段は何気なく見過ごしていることの多い校庭樹木を題材として、自然環境に対する興味関心を高めるきっかけとなります。
- ◎受講記録を学校オリジナルの「図鑑」として残すことで、受講時で途切れることのない、持続的な学習や各種の取り組みへと応用が可能です

【授業を受けた先生の声】

- ◎「樹木を生き物として実感できた。また、専門的な見地を通して身近な生物を観察できた。」
- ◎「校庭の樹木が題材なので、準備にかかる手間が少なくて済んだ。」
- ◎「自分たち(先生方)も知らないことを多く知ることができた。」